

くらがの

発行所 倉賀野神社

〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町1263番地
電話 027-346-2158
FAX 027-346-2184

例祭（秋季大祭） 10月19日
春季大祭 4月19日
公式ホームページ www.chinju.info/

倉賀野神社

倉賀野神社はその名の通り倉賀野町の総鎮守である。倉賀野神社は大国魂大神を主神としてまつる神社で、久しく国玉さまと呼んでいたらしい。国玉さまは同時に大国魂大神の御霊代である神宝亀形の自然石のことである。この宝石は崇神天皇の皇子豊城入彦命が東国経営の際、この地に齋場を設け、御霊代としてまつたものとして伝えられている。雨乞いの神事にはこの霊石に祈るので、雨乞石ともいわれている。長さ二十センチ、幅十二、三センチ、厚さ七センチの緑がかった自然石である。

ここにこの石がまつられたというのは、崇神天皇の四十八年九月十九日ということなので、約二千年前ということになる。宮原という地名の起りはここにあると考えられる。社宝に古色蒼然たる翁面がある。これは大同二年（八〇七）九月、坂上田村麿が社殿造営の際、舞楽を奏上したときのものだという。もう一つ、慶応三年（一八六七）奉獻の和算額がある。当地の数学家鈴木角右衛門勝森らが奉獻したものである。



四月一日 月次祭の朝の境内



十月十九日、秋の例大祭に中学生神輿の渡御。めでたく帰還して、御本社前で拝礼し「還幸の儀」。

『高崎の名所と伝説』より



祝祭日には国旗を掲げましょう。

倉賀野神社奉賛会のご案内

本誌（倉賀野神社社報）は、倉賀野神社奉賛会の皆様のお手元に会報として春・秋の年2回お届けしているものです。

奉賛会の会費御浄財は(1)祭典の執行、(2)文化財の維持保全、(3)伝統芸能の継承、(4)鎮守の杜の保護育成などに大切に活用されます。

すでにご加入の皆様には日頃からのあたたかいご協力で心から感謝申し上げます。また新規にご縁の皆様にも、どうぞ奉賛会にご加入いただきまして、大神様の厚い御神徳をいただきますようご祈念いたします。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

奉賛会 年会費	
○正会員	一口二千元
○特別会員	一口一万円

お問い合わせ・お申し込みはご近所の神社総代、または社務所までご連絡ください。

社務所 ☎ 027(346)2158

花のたより

ボケ（木瓜）

背後に手水舎が見える。三月半ば、かたい蕾も色づいて開花を今かと待っている。江戸に生まれ、高崎で育った俳人村上鬼城（慶応元年・一八六五～昭和十三年・一九三八）の句に「岨道を牛の高荷や木瓜の花」岨道を牛の高荷や木瓜の花



神饌田拔穂祭と懸税の奉納

境内の神饌田では昨年六月二十六日、御田植祭をおこない、実りの秋の十月十四日には拔穂祭の神事がおこなわれた。また同十九日秋祭りには、近隣農家から稲穂の束を御社前につるしてお供える「懸税」が奉納された。

この国土の田作りの営みは、神代の昔、天照大御神が高天原に作られた神聖な田の稲穂を、私たちの祖先にお授けになったことに始まる。『齋庭稲穂の神勅』に「吾が高天原にきこしめす齋庭の穂を以て、亦吾が兒にまかせまつるべし」とみえる。天孫瓊杵尊が高天原からこの国土に天下られるときに、天照大御神から賜ったことば「神勅」が今に伝わるのです。



氏子農家からの奉納により社殿に吊り下げられた懸税。お正月の神社の授与木札には、この稲穂が添えられている。

太々神楽保存会 舞人募集

お問い合わせは社務所へどうぞ
☎027(346)2158
みんな、「初めて」から始まるんです



「稲荷種まきの舞」

祭典日誌▽平成二十六年十二月三十一日 年越大祓式。一年間のつみ・けがれを祓い清めた。▽二十七年一月十五日 早朝より境内社・北向道祖神大祭、あわせて古神札焼納祭（どんど焼き）を執行。▽二月十一日 建国記念の日境内社・冠稲荷初午大祭を執行。福投げ行事等が賑やかに行われた。▽二月二十五日 境内社・天神社の前で例大祭祝詞奏上。▽三月八日 勸学祭・ランドセルお祓い式を執行。宮繕日誌▽平成二十六年十二月 手水舎修繕なる。柱の根元が被水損傷していたもの。▽二十七年三月 拝殿の畳表替え。▽三月九日 北鳥居脇に記念石玉垣工事始まる。「奉祝伊勢神宮第六十二回式年遷宮、并倉賀野神社参集殿竣工」

もうすぐ春の大祭を迎える頃となりました。氏子・崇敬者の皆様にはご清栄にお過ごしのことと心よりお慶び申し上げます。

今年は先の大戦から七十年という節目の年であり、天皇皇后両陛下には四月八日、南太平洋パラオ共和国訪問の旅にご出発になり、ペリリュー島で日米双方の戦没者の慰霊碑の前に追悼をなさるご予定と伝えられました。両陛下がご無事に慰霊の目的を果たされますよう全国の神社で祈願の祝詞が奏上されたことです。

昭和天皇の御製に「あめつちの神にぞ祈るあさなぎの海のごとくに波たため世を」とあります。御製をもとに皇紀二千六百年「浦安の舞」が作曲舞されました。氏子の児童生徒らにより毎年欠かさず祭りに奉奏されております。



平和を祈り神前に奉納する「浦安の舞」

遙かパラオの朝風ぎの海に思いをはせ散華した護国の英霊に衷心より感謝と哀悼の誠を捧げるものです。そして皆様ともどもに平和への祈りを新たにす春の大祭でありたいと念じ申し上げる次第です。

宮司高木直明謹言

勧学祭 ランドセルお祓い式

三月八日、小学校に新入学する児童等が社頭を集まった。団体昇殿が午前と午後の二部に分けておこなわれ、家族といっしょに学業成就と登下校の安全を神前に祈願した。
勧学祭・ランドセルお祓い式は毎年、入学前の三月の日曜日を選んでおこなわれている。
（祭典の日は一月頃に社頭に掲示されます。また社務所でお問い合わせの受け付けしています。）



真新しいランドセルを背負って、玉串をおそなえた。

古記録探索

明治三十三年の本殿屋根替工事 柿葺きから銅板葺きに

昨秋の社報五十七号では、御本殿屋根が大雪の被害を受けたものの、無事修理が終わったことを紹介した。本号では、本殿の御造営と屋根替えについてももう少し辿って見ることにしたい。



倉賀野神社本殿

現在の御本殿は幕末の頃に建て替えられたもので、元治二（一八六五）年三月十九日上棟式、同年四月に柿師高崎本町檜皮屋嘉兵衛から倉賀野宿世話人様あて、「御屋根積り書」が提出された。「御当所鎮守飯玉大明神 御屋根柿葺板長一尺厚サ八分八枚割 葺足軒付二重ニテ厚サ七寸品軒付厚サ二寸五分 屋根坪惣メ四十六坪二合 代金三十八両二分也 内金五両燧二受取申候（以下略）」四月に改元して慶応

元年、その八月に大屋根を葺き終えた。柿師の棟札が残る。まさに屋根に葺くような薄い杉板材が使われている。裏面には「慶應元乙丑 八月」と記されている。



(表) 58.4cm × 16.6cm × 0.5cm厚

天下泰平 高崎住柿師 奉□(葺力)壹字処 加藤嘉兵衛六代孫一清 日月清明 同 丑松楚完
本殿工事が完成して遷宮式がおこなわれたのは翌慶応二年九月であった。ところで柿葺は通常四十年位の耐久性があるといわれるが、この屋根が葺き替えられ、銅板葺きになったのは明治三十三年（一九〇〇）年であった。約三十五年の雨風に耐えたことになる。屋根替棟札も現存するが、ここでは現在も拝殿内に掲げられている屋根替奉納額を紹介したい。
表題には「本社屋根替並神楽殿新築寄進連名」「一金壹千〇参拾貳圓 寄附金総高」そして倉賀野町内外の六百余名の寄附者芳名が連なる。左端には「維持明治三十三年九月十九日」とある。このとき神楽殿の新築、幣殿屋根瓦葺、拝殿屋根油石灰及脇障子修繕、末社修繕なども同時におこなう大事業



拝殿内の明治33年の奉納額。縦1.8m×横3.6mとかなり大きい。倉賀野町内外の六百余名の寄附者芳名が連なる。

その銅板屋根も昭和十三年に再び葺き替えが行われることになるが、また機会を見て紹介することにした。

神棚のこと、

「お正月さま」のこと、
などなど
(1)

「お正月さま」ということばを耳にしたことがあると思います。新年に、神棚におまつりする一揃えの御神札のことを「お正月様」とよんでいます。家の神棚の御神札は、年毎に新しくかえておまつりするものです。神棚のこと、また倉賀野近隣地域の「お正月様」のことについてお話ししましょう。



「お正月様」御神札のまつり方の一例。天照皇大神宮（お伊勢さま）はつねに中央におまつりします。

神棚に「お正月様」をおまつりすることに、どういう意味があるのか？

新年を迎えるごとに、神様から新しい恵み、新しい生命を戴くというのが、日本人の古来の習わしです。「お正月様」はそのしるしで、一年間を通して神様のご守護をいただくのです。そして、御家のなかに家族が手を合わせて祈る場所があるということとは、とても仕合わせなことですね。

家に神棚がないのですが、どうしたらよいでしょうか？
家のつくりが昔とは違い、神棚の「たな」を吊るのが難しい場合があります。また、アパートやマンションにお住いのことも。そのような場合には、家具や台の上部に、あまり低く見下ろさなような場所に宮型（中に御神札をまつるための小型の神社）を据え置いて、御神札をおまつりするのがよいでしょう。宮型がなくとも、下に白紙を敷いて、壁を背に御神札を立て掛けることもできます。また社務所にお声掛けいただければ、簡易式宮型を差し上げています。

神棚の向きや位置などに注意することはありますか？
神様（＝御神札）からみて、南向きまたは東向きに（北側、または西側の壁を背に）。また戸建て住居の場合は、ふつう一階部分に。ここなら神様の居

心地がよさそうと思えるような、清々した場所がよいでしょう。
一年の途中でも、新しく「お正月様」をおまつりすることはできますか？
思い立たれたときに始められるのがよいでしょう。「お正月様」の御神札は年間を通して、神社でお受けになれます。

それでは「お正月様」の御神札一そろえの内容についてお話をさせていただきます。
はい。便宜上、上の写真にも番号をつけて、順にお話ししましょう。
①「天照皇大神宮さま」 皇室の御祖先神である「天照大御神」を祀る伊勢の神宮の御神札で、「神宮大麻」ともよびます。神宮は日本の総氏神ともよばれ、日本中の各家庭で、神棚のいちばん中心にまつられている御神札です。

②「歳神さま」 新しい一年を待ち望んで家々におまつりする御神札で、一年の五穀豊穡をもたらす御神徳があります。この御神札が「お正月さま」という名前の起りともいえます。
③「年中祓」 細長い形状のおふだで、昔は家の門口の竹筒に差しておき、帰宅する時にこれを抜き取ってわが身にかざし、災厄を祓い清めてから家の中

つきなみさい 毎月一日の月次祭

皇室の弥栄と国と地域の安全、そして我が家の繁栄を氏神様に祈念いたします。毎月1日の午前6時30分より。どうぞ昇殿ください。7時前には散会となります。通勤・通学の朝にも、どうぞご参拝ください。（1月元旦を除く）